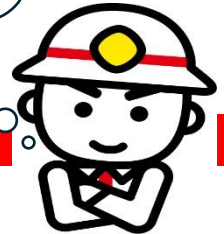


救急クイズ



Q1.浦添市の令和 6 年中の救急出場は何件でしょうか？

正解：約 6200 件

解説：浦添市の救急出場件数は年々増加しており、令和 6 年中は 6232 件となりました。救急需要は今後も増加することが予想されています。浦添市消防本部では、令和 7 年度より日勤救急隊の運用を開始し、救急需要の多い日中の体制を強化しました。

Q2.浦添市安波茶で事故が起きたら、通常、1 番に駆けつける救急隊はどの救急隊でしょうか？

正解：消防署（前田）の救急隊

浦添市安波茶の管轄は前田にある消防署ですので、通常であれば消防署の救急隊が駆けつけます。しかし、消防署の救急車が別の救急事案に出場している場合は遠くの場合にいる他の救急隊が現場に駆けつけます。そのため、現場までの到着時間は長くなってしまいます。救急件数の増加に伴い、救急現場までの到着時間も年々延長しています。

Q3.浦添市消防本部の救急車は全部で何台あるでしょうか？

正解：6 台

令和 8 年 8 月現在、浦添市消防本部の救急車は全部で 6 台です。消防署（前田）に 4 台、牧港・内間出張所に各 1 台ずつ配備されています。消防署の 4 台のうちの 1 台は、通常は運行しておらず、他の救急車が故障や点検のため運行できない際の代替車になります。

Q4.道で倒れている人を見つけたら、最初にするべき行動はどれでしょうか？

正解：周囲が安全か確認して、倒れている人に近づく

解説：倒れている人がいれば、近づいても大丈夫か周囲を確認してから、その人に近づいて呼びかけてください。そこで反応がなければ 119 番通報や AED の準備を行います。念をおくって倒れた人が起き上がれば、あなたはヒーラー（回復）タイプかもしれません。

Q5.救急車を呼ぶかどうか迷ったとき、どの番号に電話すると相談できるでしょうか？

正解：#7119

解説：救急車が必要かどうか、判断に迷ったとき、#7119 に電話すると相談することができます。小児の場合は#8000 に電話すると相談することができます。ちなみに、①の「1260」はヴァンパイア数です。ヴァンパイア数とは、数字を並び替えて 2 つの数字を作り、それらの積がもとの数字になる数の事です。具体的には「1260」は 1、2、6、0 の 4 つの数字が使われており、それを並びかえて作った数字 21 と 60 を掛け合わせると 1260 になるので、1260 は ヴァンパイア数ということになります。

Q6.

正解：静脈路確保によるアドレナリン投与

解説：救急救命士が行う処置は、医師の具体的な指示（オンラインメディカルコントロール）を必要とする特定行為と、包括的な指示（事前のプロトコル等）のもとで行える処置に分かれます。静脈路確保によるアドレナリン投与は特定行為にあたり、除細動やエピペンの投与は包括的指示のもとで実施できる処置になります。

Q7.

正解：起坐位（すわった状態）

解説：急性心不全により心臓のポンプ機能が低下すると、肺に血液がうっ滞し、激しい呼吸困難を引き起こします。この状態の傷病者に対しては起坐位（または半坐位）をとらせるのが最も適切です。体を起こすことで、重力により血液が下半身に移動し、これにより心臓へ戻ってくる血液量が減少され、心臓の負担が軽くなります。しかし、本人が最も楽だと感じる姿勢をとらせることが基本です。

Q8.

正解：血糖値の測定を行う

解説：救急救命士の血糖測定の適応は、原則として「意識障害を認める傷病者」です。本症例の主訴・病態は外傷性ショック（出血）であり、優先すべきは止血・全身管理です。意識障害の記載もないため、緊急で血糖測定を行うことは適切ではありません。

○静脈路確保を行う（適切）

ショック状態（心肺機能停止前）の重度傷病者に対し、医療機関到着までの血圧維持や輸液投与のため静脈路確保（特定行為）を行うことは適切です。

○傷口の止血処置を行う（適切）

外傷性ショックの根本原因である大量出血を止めるため、直接圧迫止血などの処置を行うことが最優先されます。

○酸素投与を行う（適切）

ショック状態では組織への酸素供給が低下しているため、高濃度酸素の投与（応急手当）が必要です。